

名古屋スクールオブミュージック&ダンス専門学校 2026年度 シラバス

科目名 (英)	音楽理論Ⅱ (musical theoryⅡ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	渡辺智哉
学科	音楽テクノロジー科	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60	開講区分	後期
コース	全コース					曜日・時限	水曜4.5

【授業の学習内容】

音楽の言語となるもので、音楽コミュニケーションの基本から学び、
楽譜からアレンジまで実践的な要素も習得する。

※実務者経験：ルネ音楽教室代表。自身のバンドやサポート・セッションギタリスト、インストラクターとして、名古屋を中心に15年以上活動が続けている。

【到達目標】

マイナースケールや近親調など調性についての知識を習得する。
基本形でのコードがわかる。

授業計画・内容	
1回目	マイナースケールを知る。
2回目	マイナースケール
3回目	近親調
4回目	移調
5回目	奏法の記号
6回目	スコアリーディング及び確認テスト
7回目	コード(トライアド)
8回目	コード(トライアド)
9回目	コード(7thコード)
10回目	コード(7thコード)
11回目	その他のコード
12回目	その他のコード
13回目	スコアリーディング及び期末テスト予習
14回目	期末テスト
15回目	テスト返却、復習
準備学習 時間外学習	
評価方法	試験80%、出席・授業態度20%
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	
教科書、iPad、授業プリント	

名古屋スクールオブミュージック&ダンス専門学校 2026年度 シラバス

科目名 (英)	イヤートレーニング (Ear Training)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	西村 守
学科	音楽テクノロジー科	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60	開講区分	前期
コース	全コース					曜日・時限	木4.5
【授業の学習内容】 (※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) 作曲に必要なリズム音程の聞き取りを習得する。 音を聞き分けたり、音程感やリズム感を養うものとして、 身の回りの音から創造力を習得する。 ※実務者経験：串田アキラ、宮内タカユキのサポートギタリストを務める。グレン・ソーベル(インペリテリ、トニー・マカバイン)等と共に師の教則DVDのレコーディング、LIVEシューティングに参加。楽譜メーカーのモニター・デモンストレーターとしても活躍。							
【到達目標】 音を聞き取り、楽譜を正確に書ける。							

授業計画・内容			
1回目	3、4拍子のビート感覚がわかる。2度の音程が歌える、聴き取れる。		
2回目	全音、半音の違い、8分音符、C～Eの音を聴き取れる。		
3回目	M.mの意味が理解できる。1、8度を聴き取れる。歌える。		
4回目	短いフレーズを覚えて楽譜にできる。異名同音の存在が理解できる。M.mの音程が歌える、聴ける。		
5回目	簡単な楽譜を見て音を想像できる。		
6回目	確認テスト		
7回目	4分休符、8分休符をビートの中で感じられる。		
8回目	4分休符、8分休符をビートの中で感じられる。		
9回目	順次進行でC～Gまでの音を聴き分け記譜できる。		
10回目	順次進行でC～Gまでの音を聴き分け記譜できる。		
11回目	16ビート上で正確に叩ける。		
12回目	16ビート上で正確に叩ける。		
13回目	メジャーコード、マイナーコードを歌える、聴き取れる。		
14回目	テスト対策週		
15回目	テスト		
準備学習 時間外学習			
評価方法	試験80%、出席・授業態度20%	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59 点以下 F 不合格	
受講生への メッセージ			
【使用教科書・教材・参考書】 教科書、iPad、授業プリント			

名古屋スクールオブミュージック&ダンス専門学校 2026年度 シラバス

科目名 (英)	イヤートレーニング (Ear Training)	必修選択	必修	年次	2	担当教員	西村 守
学科	音楽テクノロジー科	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60	開講区分	後期
コース	全コース					曜日・時限	木4.5
【授業の学習内容】 （※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する） 作曲に必要なリズム音程の聞き取りを習得する。 音を聞き分けたり、音程感やリズム感を養うものとして、 身の回りの音から創造力を習得する。 ※実務者経験：串田アキラ、宮内タカユキのサポートギタリストを務める。グレン・ソーベル(インペリテリ、トニー・マカバイン)等と共に師の教則DVDのレコーディング、LIVEシューティングに参加。楽譜メーカーのモニター・デモンストレーターとしても活躍。 【到達目標】 音を聞き取り、楽譜を正確に書ける。							

授業計画・内容			
1回目	マイナースケールを感じて歌うことができる。		
2回目	コードの聴き分けができる。		
3回目	臨時記号が入ったメロディーを聴いて記譜できる。		
4回目	タイが入ったメロディーを聴いて記譜できる。		
5回目	テスト対策(まとめ)		
6回目	確認テスト		
7回目	Fclefの音を聴き記譜できる。		
8回目	Fclefの音を聴き記譜できる。		
9回目	リズムの入ったメロディーを聴いて記譜できる。		
10回目	リズムの入ったメロディーを聴いて記譜できる。		
11回目	2声のメロディーを聴き分けることができる。		
12回目	2声のメロディーを聴き分けることができる。		
13回目	テスト対策(まとめ)		
14回目	テスト		
15回目	テスト返却 復習		
準備学習 時間外学習			
評価方法	試験80%、出席・授業態度20%	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	
受講生への メッセージ			
【使用教科書・教材・参考書】 教科書、iPad、授業プリント			

名古屋スクールオブミュージック&ダンス専門学校 2026年度 シラバス

科目名 (英)	音楽史 (music history)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	水沼 慎一郎
学科	音楽テクノロジー科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60	開講区分	前期
コース	全コース					曜日・時限	水曜2.3限
【授業の学習内容】 実際の楽曲を通し、様々な音楽の歴史を深く学んでいく。 ※作曲家・ピアニスト 新潟大学卒業。スコラ・カントルム（フランス・パリ）卒業。作曲を清水研作、ナルシス・ボネ、パトリス・ショルティエノの各氏に師事。							
【到達目標】 日本と世界の音楽史を学び比較し、これからの音楽を考えていく力を習得する。							

授業計画・内容	
1回目	ポピュラー音楽を中心とした歴史背景の説明
2回目	日本の音楽と世界の歴史的背景
3回目	西洋音楽史①：古代の音楽
4回目	西洋音楽史②：中世の音楽
5回目	西洋音楽史③：近代の音楽
6回目	西洋音楽史④：現代の音楽
7回目	西洋音楽史⑤：ブルースからジャズ
8回目	西洋音楽史⑥：ポップス
9回目	日本音楽史①：ポピュラー全盛期
10回目	日本音楽史②：民謡
11回目	日本音楽史③：雅楽
12回目	日本と東洋・欧米の音楽的關係：俯瞰分析
13回目	テスト範囲総括
14回目	筆記テスト
15回目	テスト返却 総括
準備学習 時間外学習	
評価方法	1：定期試験10% 2：レポート10% 3：出席率60% 4：授業態度20%
受講生への メッセージ	音楽史の硬いイメージを取り払い、今日の音楽との関わりを丁寧に伝えるよう心がけます。 年号を暗記するなどの従来の方法だけでなく、実際の曲を通し、音楽の聞き方を一緒に広く変えていきましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 教科書：「Western Music」 Claude V. Palisca他 副読本：「音楽中辞典」池辺晋一郎 等 準備物：メモ、筆記用具等	

名古屋スクールオブミュージック&ダンス専門学校 2026年度 シラバス

科目名 (英)	音楽史 (music history)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	水沼 慎一郎
学科	音楽テクノロジー科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60	開講区分	後期
コース	全コース					曜日・時限	水曜4.5限

【授業の学習内容】							
海外を中心にポピュラーミュージックの歴史認識を習得する。 ※作曲家・ピアニスト 新潟大学卒業。スコラ・カントルム（フランス・パリ）卒業。作曲を清水研作、ナルシス・ボネ、パトリス・ショルティエの各氏に師事。							
【到達目標】							
世界的なスタンダードとされる音楽ジャンル、ミュージシャンについての知識を習得し、国内はもとより海外でも通用する知識の習得。また、日本の音楽ビジネスの現状を世界のルーツを研究することで、より深い認識を習得する。							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション。海外の音楽シーンの現状を把握する
2回目	楽器、機材の遍歴と音楽ジャンルの関係性を知る
3回目	日本の音楽ビジネスの現状をメディアの生産量の動向から探る。
4回目	日本の音楽ビジネスの現状をメディアの生産量の動向から探る。
5回目	50年代 アメリカ ロックンロールの誕生①ブラックミュージックの状況
6回目	50年代 アメリカ ロックンロールの誕生②楽器生産の動向
7回目	60年代 モータウン ブラックミュージックの革命と公民権運動
8回目	60年代 サイケデリックミュージック ドラッグカルチャーと大型ロックフェス
9回目	70年代 ハードロック、グラムロック 表現手法の多様化
10回目	70年代 ファンクミュージック、ディスコブーム
11回目	70年代 パンクロック 既存の音楽の解体
12回目	80年代 HIPHOPカルチャー MTV登場によるメディア革命
13回目	海外の音楽 エンターテインメントについて テクノロジーや最先端のパフォーマンスを探る
14回目	日本の音楽シーンを振り返る ミリオンヒットについて
15回目	筆記テスト 総括
準備学習 時間外学習	
評価方法	1: 定期試験10% 2: レポート10% 3: 出席率60% 4: 授業態度20%
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	
教科書：音楽史（洋楽編iPad） 配布資料他	

名古屋スクールオブミュージック&ダンス専門学校 2026年度 シラバス

科目名 (英)	ミュージックテクノロジーⅡ		必修 選択	必修	年次	2	担当教員	斉藤修平
学科	音楽テクノロジー科		授業 形態	実習	総時間	30	開講区分	前期
コース	全コース				(単位)		曜日・時限	木曜3限
【授業の学習内容】								
ボーカルのエディットの技術ボーカルミックスの技術を習得する。＊実務経験：作曲家としてボーカルのボーカルディレクション及びピッチ補正を行なっている。								
【到達目標】								
メロライン、プロツールズを使ってピッチ補正、エディットする技術またボーカルに対するEQ、コンプなどを使用する技術を習得する								
授業計画・内容								
1回目	プロツールズの使い方							
2回目	プロツールズの使い方2							
3回目	波形編集について学ぶ1							
4回目	波形編集について学ぶ2							
5回目	波形編集について学ぶ3							
6回目	波形編集した後のボーカルエディットについて1							
7回目	波形編集した後のボーカルエディットについて2							
8回目	高度なボーカルエディットのミキシングについて学ぶ1							
9回目	高度なボーカルエディットのミキシングについて学ぶ2							
10回目	ボーカルを使った特殊な編集について学ぶ							
11回目	バックグラウンドボーカルについて学ぶ1							
12回目	バックグラウンドボーカルについて学ぶ2							
13回目	バックグラウンドボーカルについて学ぶ3							
14回目	発表							
15回目	発表							
準備学習 時間外学習	Melodyneの操作に慣れる。							
評価方法	授業内評価	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格		制作物の提出20%、テスト80%にて評価します。				
受講生への メッセージ	より歌のディテールをエディット制作していきます。細かい作業が多く変化も些細なものになってきますがいい作品にするためには些細なことの積み重ねです。集中して取り組みましょう。							
【使用教科書・教材・参考書】								
なし								

名古屋スクールオブミュージック&ダンス専門学校 2026年度 シラバス

科目名 (英)	ミュージックテクノロジーⅡ		必修 選択	必修	年次	2	担当教員	斉藤修平	
学科	音楽テクノロジー科		授業 形態	実習	総時間	30	開講区分	前期	
コース	全コース				(単位)		曜日・時限	木曜 4 限	
【授業の学習内容】									
DTMを使い音楽制作のスキルを習得する。 ＊実務経験：作家として作家事務所に所属し、アーティストへの楽曲提供をしている。									
【到達目標】									
編曲、簡単な作曲、作詞などを1人でできる技術を習得する。									
授業計画・内容									
1回目	ハウス音楽とは								
2回目	ハウス音楽に使われるドラムサウンドについて学ぶ								
3回目	ハウス音楽で使われるシンセサイザーの音、ビートメイキング								
4回目	シンセウェーブ、エレクトロポップ、シンセポップについて								
5回目	シンセウェーブのサウンドについて								
6回目	シンセウェーブの制作及びアナログシンセサイザーについて								
7回目	レゲトン及びラテンミュージックについて								
8回目	レゲトンで使用するドラムサウンド及びシンセサウンド								
9回目	レゲトンのビート制作								
10回目	ミキシングについて								
11回目	ミキシングについて								
12回目	マスタリングについて								
13回目	マスタリングについて								
14回目	発表								
15回目	発表								
準備学習 時間外学習	自分が使用するDTMの簡単な使い方。								
評価方法	授業内評価		評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格		制作物の提出20%、テスト80%にて評価します。				
受講生への メッセージ	レベルⅡのサウンドプロダクションの授業では様々なジャンルを広く学びます。ぜひ様々な音楽に触れ興味を持ってください。またミックス、マスタリングではより高度なことをします。多少理解しきれない部分もあるかと思いますが頑張ってください。								
【使用教科書・教材・参考書】									
なし									

名古屋スクールオブミュージック&ダンス専門学校 2026年度 シラバス

科目名 (英)	インストルメンツ (instruments)	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員	野崎 貴潤
学科	音楽テクノロジー科	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60	開講区分	前期
コース	全コース					曜日・時限	土曜4.5
【授業の学習内容】 (※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) Logic, GarageBandを使い基本的なDTMの知識、扱い方を学び、打ち込みの技術を身につける。 〈講師プロフィール〉 日本大学芸術学部音楽学科で作曲を学ぶ。作編曲からRe-Mix、Recording、Mix、Masteringまでデジタルとアナログ双方を駆使したトータルなサウンド・プロデュースを行う。これまで小島麻由美、ICE、Fayray、広瀬香美、SOON、ゴスペラーズ等数多くの作品に携わる。							
【到達目標】 DTMの基本的な操作方法を身につけ、自身の曲のデモバージョンを打ち込めるようになる。							

授業計画・内容			
1回目	授業内容説明、1学年の復習		
2回目	色々な楽曲の分析①コード進行、メロディを理解出来る		
3回目	色々な楽曲の分析②コード進行、メロディを理解出来る		
4回目	色々な楽曲の分析③アレンジが出来る		
5回目	色々な楽曲の分析④アレンジが出来る		
6回目	色々な楽曲の分析⑤アレンジが出来る		
7回目	色々な楽曲の分析⑥歌詞を理解出来る		
8回目	色々な楽曲の分析⑦歌詞を理解出来る		
9回目	楽曲の制作①Logicを使用できる		
10回目	楽曲の制作②Logicを使用できる		
11回目	楽曲の制作③Logicを使用できる		
12回目	楽曲の制作④Logicを使用できる		
13回目	自分たちが作った楽曲の発表、分析		
14回目	前期の授業の復習		
15回目	実技テスト		
準備学習 時間外学習	授業の内容が難しいことが多いため、毎回の復習が必要になります。		
評価方法	1. 定期試験 (%) 2. 小テスト (%) 3. レポート (%) 4. 課題成果 (%) 5. 実地試験 (%)	評価方法はGPA制度となります100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	実技テスト（提示された課題に沿って楽曲制作ができるか）
受講生への メッセージ	最近ではDTMを扱えるミュージシャンが増えてきているため、毎回の授業の中で理解度を高め、しっかりと学習をしてください。		
【使用教科書・教材・参考書】			
楽曲の譜面・音源・iPad・鍵盤楽器もしくはギター			

名古屋スクールオブミュージック&ダンス専門学校 2026年度 シラバス

科目名 (英)	インストルメンツ(instruments)	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員	野崎 貴潤
学科	音楽テクノロジー科	授業 形態	講義・演習	総時間	60	開講区分	後期
コース	全コース			(単位)	曜日・時限	土曜4.5	
【授業の学習内容】 （※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する） Logic, GarageBandを使い基本的なDTMの知識、扱い方を学び、打ち込みの技術を身につける。 〈講師プロフィール〉 日本大学芸術学部音楽学科で作曲を学ぶ。作編曲からRe-Mix、Recording、Mix、Masteringまでデジタルとアナログ双方を駆使したトータルなサウンド・プロデュースを行う。これまで小島麻由美、ICE、Fayray、広瀬香美、SOON、ゴスペラーズ等数多くの作品に携わる。							
【到達目標】 DTMの基本的な操作方法を身につけ、自身の曲のデモバージョンを打ち込めるようになる。							

授業計画・内容			
1回目	前期の授業の復習		
2回目	Logicを使った楽曲の制作①テーマ、コンセプトを理解する		
3回目	Logicを使った楽曲の制作②コード進行、メロディを理解出来る		
4回目	Logicを使った楽曲の制作③コード進行、メロディを理解出来る		
5回目	Logicを使った楽曲の制作④アレンジが出来る		
6回目	Logicを使った楽曲の制作⑤アレンジが出来る		
7回目	Logicを使った楽曲の制作⑥アレンジが出来る		
8回目	Logicを使った楽曲の制作⑦アレンジ、作詞を分析出来る		
9回目	Logicを使った楽曲の制作⑧アレンジ、作詞を分析出来る		
10回目	Logicを使った楽曲の制作⑨アレンジ、歌録りが出来る		
11回目	Logicを使った楽曲の制作⑩Mixが出来る		
12回目	Logicを使った楽曲の制作⑩マスタリングが出来る		
13回目	Logicを使った楽曲の制作⑪Mix、マスタリングが出来る		
14回目	後期の授業の復習		
15回目	実技テスト		
準備学習 時間外学習	授業の内容が難しいことが多いため、毎回の復習が必要になります。		
評価方法	1. 定期試験 (%) 2. 小テスト (%) 3. レポート (%) 4. 課題成果 (%) 5. 実地試験 (%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	実技テスト（提示された課題に沿って楽曲制作ができるか）
受講生への メッセージ	最近ではDTMを扱えるミュージシャンが増えてきているため、毎回の授業の中で理解度を高め、しっかりと学習をしてください。		
【使用教科書・教材・参考書】 楽曲の譜面・音源・iPad・鍵盤楽器もしくはギター			

名古屋スクールオブミュージック&ダンス専門学校 2026年度 シラバス

科目名 (英)	パフォーマンス	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	山口 晃
学科	音楽テクノロジー科	授業 形態	実習	総時間 (単位)	60	開講区分 曜日・時限	前期 月曜日・4限
コース	全コース						
【授業の学習内容】							

自分の身体を知るためのストレッチ。
その身体で全ての演技に必要な発声を身につける。
相手役のあるテキストにより、自分のイメージした声・滑舌ができるようになる。

【到達目標】

自分の身体から相手に届く発声を身につける。

授業計画・内容

- 1回目 ストレッチ・発声・シアターゲーム等を正しく理解。そのための講義。
- 2回目 ストレッチ・発声により、現在の自分の実力を知る。息の体操。
- 3回目 ストレッチ・発声後、シアターゲームにより相手に声を届ける。
- 4回目 セリフのテキストを配布し、説明。
- 5回目 セリフのテキストを本読み。
- 6回目 ストレッチ・発声後、本読みでの点・丸の意味を理解。
- 7回目 ストレッチ・発声後、相手役を意識し、相手に声が届くように訓練。
- 8回目 ストレッチ・発声後、演技を意識した発声。
- 9回目 ストレッチ・発声後、立ち稽古。
- 10回目 ストレッチ・発声後、動きと連動した発声。
- 11回目 ストレッチ・発声後、立ち稽古。他の演技者を見ることにより、自分を知ることができる。
- 12回目 テスト。テキストの演技をする。
- 13回目 前期を見返し、後期の課題を見つけることができる。

14回目

15回目

授業の復習、息の体操、外郎売りを覚える

準備学習
時間外学習

評価方法 実技テストによる採点

評価方法はGPA制度となります
100～90点 S
89～80点 A
79～70点 B
69～60点 C
59点以下 F 不合格

受講生への
メッセージ あせらず、確実に。新たな自分を発見し、向上を目指す。

【使用教科書・教材・参考書】

名古屋スクールオブミュージック&ダンス専門学校 2026年度 シラバス

科目名 (英)	パフォーマンス	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	山口 晃
学科	音楽テクノロジー科	授業 形態	実習	総時間 (単位)	60	開講区分	前期
コース 【授業の学習内容】	全コース					曜日・時限	月曜日・5.6限

演劇業界で必要とされる人を目指し、自分のキャラクターを発見する。
すべての授業の集大成としての演劇公演をすることで、周りの人との協調性・人間力を養い、必要とされる演技者になる。

【到達目標】

演劇業界で必要とされる俳優になる。

授業計画・内容

- 1回目 シアターゲームにより即興性を養う。サブテキストについて説明、理解できる。
- 2回目 様々なゲームにより演劇的な即興性を養う。
- 3回目 公演台本の配布・説明、それを理解。
- 4回目 キャストオーディションに臨む。
- 5回目 キャスト発表。自分の役での本読み。
- 6回目 より詳しく、シーンを理解するための本読み。
- 7回目 立ち稽古で自分の役割を知る。ミザンスを決める。
- 8回目 立ち稽古により、演出を理解する。
- 9回目 衣装・小道具ありの稽古。
- 10回目 通し稽古をするための小返し稽古。
- 11回目 通し稽古。
- 12回目 本番通りの稽古。観客を意識した演技。
- 13回目 反省により、今後の課題を見つける。

14回目

15回目

本読み、台詞を覚える、イメージトレーニング。

準備学習時
間外学習

評価方法 公演の成果による採点

評価方法はGPA制度となります
100～90点 S
89～80点 A
79～70点 B
69～60点 C
59点以下 F 不合格

受講生への
メッセージ 業界で必要とされる俳優になるため、日々の努力を！！

【使用教科書・教材・参考書】

名古屋スクールオブミュージック&ダンス専門学校 2026年度 シラバス

科目名 (英)	ソングライティング (songwriting)	必修 選択	選択必修	年次	2年	担当教員	野崎 貴潤
学科	音楽テクノロジー科	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60	開講区分	前期
コース	全コース					曜日・時限	木曜1,2限
【授業の学習内容】 (※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) Logic, GarageBandを使い基本的なDTMの知識、扱い方を学び、打ち込みの技術を身につける。 〈講師プロフィール〉 日本大学芸術学部音楽学科で作曲を学ぶ。作編曲からRe-Mix、Recording、Mix、Masteringまでデジタルとアナログ双方を駆使したトータルなサウンド・プロデュースを行う。これまで小島麻由美、ICE、Fayray、広瀬香美、SOON、ゴスペラーズ等数多くの作品に携わる。							
【到達目標】 DTMの基本的な操作方法を身につけ、自身の曲のデモバージョンを打ち込めるようになる。							

授業計画・内容			
1回目	授業内容説明、DTMでの作業及び作曲の手順について、PCの立ち上げ、セッション作成、保存を理解できる		
2回目	Logic,GarageBand① 機能の説明/302講習 8の字巻きが出来る		
3回目	Logic,GarageBand② 機能の説明、ツールを理解出来る		
4回目	Logic,GarageBand③ 打ち込み練習（Drum）・トラックスタックを習得		
5回目	Logic,GarageBand④ 打ち込みが出来る（Drum,Bass）		
6回目	Logic,GarageBand⑤ 打ち込みが出来る（Drum,Bass,Piano）		
7回目	Logic,GarageBand⑥ 打ち込みが出来る（Drum,Bass,Piano,Guitar）		
8回目	Logic,GarageBand⑦ 打ち込みが出来る		
9回目	Logic,GarageBand⑦ Plug inの基本、説明（AUX,BUS）が理解できる		
10回目	Logic,GarageBand⑧ Plug inの説明(Reverbとその種類)が理解できる		
11回目	Logic,GarageBand⑨ Plug inの説明（Compressor,EQ）が理解できる		
12回目	Logic,GarageBand⑩ Plug inの復習		
13回目	Logic,GarageBand⑩ Plug inの応用が出来る		
14回目	Logic,GarageBand⑩ Plug inの応用が出来る		
15回目	実技テスト		
準備学習 時間外学習	授業の内容が難しいことが多いため、毎回の復習が必要になります。		
評価方法	1．定期試験（％） 2．小テスト（％） 3．レポート（％） 4．課題成果（％） 5．実地試験（％）	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	実技テスト（提示された課題に対して正しく打ち込みができるか、また基本操作を習得しているか）
受講生への メッセージ	最近ではDTMを扱えるミュージシャンが増えてきているため、毎回の授業の中で理解度を高め、しっかりと学習をしてください。		
【使用教科書・教材・参考書】 楽曲の譜面・音源・iPad・鍵盤楽器もしくはギター			

名古屋スクールオブミュージック&ダンス専門学校 2026年度 シラバス

科目名 (英)	ソングライティング (songwriting)	必修 選択	選択必修	年次	2年	担当教員	野崎 貴潤
学科	音楽テクノロジー科	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60	開講区分	後期
コース	全コース					曜日・時限	木曜3.4限
【授業の学習内容】 (※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) Logic, GarageBandを使い基本的なDTMの知識、扱い方を学び、打ち込みの技術を身につける。 〈講師プロフィール〉 日本大学芸術学部音楽学科で作曲を学ぶ。作編曲からRe-Mix、Recording、Mix、Masteringまでデジタルとアナログ双方を駆使したトータルなサウンド・プロデュースを行う。これまで小島麻由美、ICE、Fayray、広瀬香美、SOON、ゴスペラーズ等数多くの作品に携わる。							
【到達目標】 DTMの基本的な操作方法を身につけ、自身の曲のデモバージョンを打ち込めるようになる。							

授業計画・内容			
1回目	マイクの種類について理解できる		
2回目	色々な種類のマイクを使った録音が出来る		
3回目	音質（ビットレート）・圧縮データ/非圧縮データ・バウンスについて理解できる		
4回目	オートメーションを書く（strings EQ）拍子・BPMの切り替えが出来る		
5回目	自身の曲の曲作り		
6回目	自身の曲の歌どりが出来る		
7回目	Melodyneを使ったピッチ修正を習得		
8回目	Melodyneを使ったピッチ修正を習得		
9回目	簡単Mix① 音量と配置を理解出来る		
10回目	簡単Mix② CompressorとEQを使う事が出来る		
11回目	簡単Mix③ 空間系プラグインを使う事が出来る（reverb他）		
12回目	①②③を実際に応用できる		
13回目	①②③を実際に応用できる		
14回目	これまでの授業の復習、応用		
15回目	実技テスト		
準備学習 時間外学習	授業の内容が難しいことが多いため、毎回の復習が必要になります。		
評価方法	1．定期試験（％） 2．小テスト（％） 3．レポート（％） 4．課題成果（％） 5．実地試験（％）	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	実技テスト（提示された課題に対して正しく打ち込みができるか、また基本操作を習得しているか）
受講生への メッセージ	最近ではDTMを扱えるミュージシャンが増えてきているため、毎回の授業の中で理解度を高め、しっかりと学習をしてください。		
【使用教科書・教材・参考書】 楽曲の譜面・音源・iPad・鍵盤楽器もしくはギター			

名古屋スクールオブミュージック&ダンス専門学校 2026年度 シラバス

科目名 (英)	ソングライティング (songwriting)	必修 選択	選択必修	年次	3年	担当教員	野崎 貴潤
学科	音楽テクノロジー科	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60	開講区分	前期
コース	全コース					曜日・時限	金曜1.2限
【授業の学習内容】 (※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) Logic, GarageBandを使い基本的なDTMの知識、扱い方を学び、打ち込みの技術を身につける。 〈講師プロフィール〉 日本大学芸術学部音楽学科で作曲を学ぶ。作編曲からRe-Mix、Recording、Mix、Masteringまでデジタルとアナログ双方を駆使したトータルなサウンド・プロデュースを行う。これまで小島麻由美、ICE、Fayray、広瀬香美、SOON、ゴスペラーズ等数多くの作品に携わる。							
【到達目標】 DTMの基本的な操作方法を身につけ、自身の曲のデモバージョンを打ち込めるようになる。							

授業計画・内容			
1回目	授業内容説明、1学年の復習		
2回目	色々な楽曲の分析①コード進行、メロディを理解出来る		
3回目	色々な楽曲の分析②コード進行、メロディを理解出来る		
4回目	色々な楽曲の分析③アレンジが出来る		
5回目	色々な楽曲の分析④アレンジが出来る		
6回目	色々な楽曲の分析⑤アレンジが出来る		
7回目	色々な楽曲の分析⑥歌詞を理解出来る		
8回目	色々な楽曲の分析⑦歌詞を理解出来る		
9回目	楽曲の制作①Logicを使用できる		
10回目	楽曲の制作②Logicを使用できる		
11回目	楽曲の制作③Logicを使用できる		
12回目	楽曲の制作④Logicを使用できる		
13回目	自分たちが作った楽曲の発表、分析		
14回目	前期の授業の復習		
15回目	実技テスト		
準備学習 時間外学習	授業の内容が難しいことが多いため、毎回の復習が必要になります。		
評価方法	1. 定期試験 (%) 2. 小テスト (%) 3. レポート (%) 4. 課題成果 (%) 5. 実地試験 (%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	実技テスト（提示された課題に沿って楽曲制作ができるか）
受講生への メッセージ	最近ではDTMを扱えるミュージシャンが増えてきているため、毎回の授業の中で理解度を高め、しっかりと学習をしてください。		
【使用教科書・教材・参考書】 楽曲の譜面・音源・iPad・鍵盤楽器もしくはギター			

名古屋スクールオブミュージック&ダンス専門学校 2026年度 シラバス

科目名 (英)	ソングライティング (songwriting)	必修 選択	選択必修	年次	3年	担当教員	野崎 貴潤
学科	音楽テクノロジー科	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60	開講区分	後期
コース	全コース					曜日・時限	金曜3.4限
【授業の学習内容】 (※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) Logic, GarageBandを使い基本的なDTMの知識、扱い方を学び、打ち込みの技術を身につける。 〈講師プロフィール〉 日本大学芸術学部音楽学科で作曲を学ぶ。作編曲からRe-Mix、Recording、Mix、Masteringまでデジタルとアナログ双方を駆使したトータルなサウンド・プロデュースを行う。これまで小島麻由美、ICE、Fayray、広瀬香美、SOON、ゴスペラズ等数多くの作品に携わる。							
【到達目標】 DTMの基本的な操作方法を身につけ、自身の曲のデモバージョンを打ち込めるようになる。							

授業計画・内容			
1回目	前期の授業の復習		
2回目	Logicを使った楽曲の制作①テーマ、コンセプトを理解する		
3回目	Logicを使った楽曲の制作②コード進行、メロディを理解出来る		
4回目	Logicを使った楽曲の制作③コード進行、メロディを理解出来る		
5回目	Logicを使った楽曲の制作④アレンジが出来る		
6回目	Logicを使った楽曲の制作⑤アレンジが出来る		
7回目	Logicを使った楽曲の制作⑥アレンジが出来る		
8回目	Logicを使った楽曲の制作⑦アレンジ、作詞を分析出来る		
9回目	Logicを使った楽曲の制作⑧アレンジ、作詞を分析出来る		
10回目	Logicを使った楽曲の制作⑨アレンジ、歌録りが出来る		
11回目	Logicを使った楽曲の制作⑩Mixが出来る		
12回目	Logicを使った楽曲の制作⑩マスタリングが出来る		
13回目	Logicを使った楽曲の制作⑪Mix、マスタリングが出来る		
14回目	後期の授業の復習		
15回目	実技テスト		
準備学習 時間外学習	授業の内容が難しいことが多いため、毎回の復習が必要になります。		
評価方法	1. 定期試験 (%) 2. 小テスト (%) 3. レポート (%) 4. 課題成果 (%) 5. 実地試験 (%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	実技テスト（提示された課題に沿って楽曲制作ができるか）
受講生への メッセージ	最近ではDTMを扱えるミュージシャンが増えてきているため、毎回の授業の中で理解度を高め、しっかりと学習をしてください。		
【使用教科書・教材・参考書】			
楽曲の譜面・音源・iPad・鍵盤楽器もしくはギター			

名古屋スクールオブミュージック&ダンス専門学校 2026年度 シラバス

科目名 (英)	オーディオエンジニアリングⅠ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	吉川 豊
学科	音楽テクノロジー科	授業 形態	講義演習	総時間 (単位)	60	開講区分	前期
コース	全コース					曜日・時限	月曜3,4限
【授業の学習内容】 (※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) レコーディングを行って行く上での基礎を実際にその知識が必要となる場面を交え、難しい取説や回路図など使わずにスキルを習得する。 実務者経験：株式会社ヒットキット代表。SPITZ、桜井和寿、GUKU-MC、清水翔太、高畑充希、コトリング、小柳ゆき、どぶろっく、LUV K RAFT、天童よしみ等、ジャンルを問わず数々のレコーディングに参加。							
【到達目標】 コンソール、protoolsを使い生楽器の録音ができるようになる。							

授業計画・内容			
1回目	スタジオシステムを説明出来る		
2回目	実際に音を出し、どのような信号の流れで録音されているのかを説明出来る		
3回目	ケーブルの種類とマイクの種類を説明出来る		
4回目	コンソール 信号の流れを説明出来る		
5回目	マルチマイク録音時の注意点とセッティングを説明出来る		
6回目	コンソール S S L の特徴を説明出来る		
7回目	コンソール 各パーツの役割を説明出来る		
8回目	マイキングをを説明出来る		
9回目	録音レベルの取り方 H A の詳細な使い方とフィルターの使い方を説明出来る		
10回目	コンプレッサーとリバーブの使い方を説明出来る		
11回目	protoolsテクニックの習得		
12回目	protoolsテクニックの演習を行う（効率のよい操作を習得）		
13回目	protoolsテクニックの演習を行う(プラグインの使い方を習得)		
14回目	protoolsテクニックの演習を行う(auto tuneを習得)		
15回目	習熟度テストを行う		
準備学習 時間外学習	ヒットチャートbest10に入ってる曲は常に聴いておいてください。 時間がある時はひたすらprotoolsで E D I T の練習をしてください。		
評価方法	1．定期試験（％） 2．小テスト（％） 3．レポート（％） 4．課題成果（％） 5．実地試験（％）	評価方法はG P A 制度となります 1 0 0 ～ 9 0 点 S 8 9 ～ 8 0 点 A 7 9 ～ 7 0 点 B 6 9 ～ 6 0 点 C 5 9 点以下 F 不合格	実施試験（100％）
受講生への メッセージ	好きな事を仕事にするのには、難しい事を沢山覚えないとならない。 難しい事を遊び感覚で楽しんで、できるように工夫する事が使い方の難しい機材を覚えていく上でのコツ。 自分の好きなCDを靶に最低3枚は必ず入れて持ち歩いてください。 家で聞き慣れたCDをスタジオの白いモニター環境で空いてる時間は常に聴いてください		
【使用教科書・教材・参考書】			
C D			

名古屋スクールオブミュージック&ダンス専門学校 2026年度 シラバス

科目名 (英)	オーディオエンジニアリングⅠ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	吉川 豊
学科	音楽テクノロジー科	授業 形態	講義演習	総時間 (単位)	60	開講区分	後期
コース	全コース					曜日・時限	月曜3,4限
【授業の学習内容】 (※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) レコーディングを行って行く上での基礎を実際にその知識が必要となる場面を交え、難しい取説や回路図など使わずにスキルを習得する。 実務者経験：株式会社ヒットキット代表。SPITZ、桜井和寿、GUKU-MC、清水翔太、高畑充希、コトリング、小柳ゆき、どぶろっく、LUV K RAFT、天童よしみ等、ジャンルを問わず数々のレコーディングに参加。							
【到達目標】 コンソール、protoolsを使い生楽器の録音ができるようになる。							

授業計画・内容			
1回目	復習 スタジオシステムを操作出来る		
2回目	protoolsテクニックの演習を行う		
3回目	protoolsテクニックの演習を行う		
4回目	protoolsテクニックの演習を行う		
5回目	protoolsテクニックの演習を行う		
6回目	コンソール S S Lを使った演習を行う		
7回目	コンソール S S Lを使った演習を行う		
8回目	コンソール S S Lを使った演習を行う		
9回目	コンソール S S Lを使った演習を行う		
10回目	レコーディング 素材や人材を用いて演習を行う		
11回目	レコーディング 素材や人材を用いて演習を行う		
12回目	レコーディング 素材や人材を用いて演習を行う		
13回目	レコーディング 素材や人材を用いて演習を行う		
14回目	レコーディング 素材や人材を用いて演習を行う		
15回目	習熟度テストを行う		
準備学習 時間外学習	ヒットチャートbest10に入ってる曲は常に聴いておいてください。 時間がある時はひたすらprotoolsでE D I Tの練習をしてください。		
評価方法	1. 定期試験 (%) 2. 小テスト (%) 3. レポート (%) 4. 課題成果 (%) 5. 実地試験 (%)	評価方法はG P A制度となります 1 0 0 ~ 9 0 点 S 8 9 ~ 8 0 点 A 7 9 ~ 7 0 点 B 6 9 ~ 6 0 点 C 5 9 点以下 F 不合格	実施試験 (100%)
受講生への メッセージ	好きな事を仕事にするのには、難しい事を沢山覚えないとならない。 難しい事を遊び感覚で楽しんで、できるように工夫する事が使い方の難しい機材を覚えていく上でのコツ。 自分の好きなCDを靶に最低3枚は必ず入れて持ち歩いてください。 家で聞き慣れたCDをスタジオの白いモニター環境で空いてる時間は常に聴いてください		
【使用教科書・教材・参考書】			
C D			

2026年度 シラバス

科目名 (英)	パフォーマンスプロジェクト (Performance Projects)	必修 選択	必修選択	年次	.2.3	担当教員	渡辺 智哉
学科	音楽テクノロジー科	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60	開講区分	前期
コース	全コース					曜日・時限	火曜1.2
【授業の学習内容】 （※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する） ヴォーカル、ギター、ベース、ドラム、キーボードのパートと課題曲をアンサンブルし、実際のセッションの中での立ち位置を理解し、演奏方法やパフォーマンス、インプロビゼーションの技術を習得する。課題曲を2週ごとに1曲出し、1週目はその曲のアナライズをし、2週目は実際にアンサンブルを行う。 ※実務者経験：ルネ音楽教室代表。自身のバンドやサポート・セッションギタリスト、インストラクターとして、名古屋を中心に15年以上活動が続けている。							
【到達目標】 アナライズまでには課題曲をしっかり聴き、できる限り自分のパートを弾けるようにしておく。アナライズでは、聴き取ってきたフレーズやリズムが合っているかの確認と訂正、音色の選択、ソロがある場合はインプロビゼーションができるようにする。アンサンブルでは実際にアナライズした内容を実践し、バンド内でのグルーヴ感や、演奏力、アイコンタクトやキュー出し、パフォーマンス力を身に付ける。							
授業計画・内容							
1回目	課題曲 1 アナライズ 楽曲の説明ができる						
2回目	課題曲 1 アンサンブル アンサンブルの中で演奏とパフォーマンスができる						
3回目	課題曲 2 アナライズ 楽曲の説明ができる						
4回目	課題曲 2 アンサンブル アンサンブルの中で演奏とパフォーマンスができる						
5回目	課題曲 3 アナライズ 楽曲の説明ができる						
6回目	課題曲 3 アンサンブル アンサンブルの中で演奏とパフォーマンスができる						
7回目	課題曲 4 アナライズ 楽曲の説明ができる						
8回目	課題曲 4 アンサンブル アンサンブルの中で演奏とパフォーマンスができる						
9回目	課題曲 5 アナライズ 楽曲の説明ができる						
10回目	課題曲 5 アンサンブル アンサンブルの中で演奏とパフォーマンスができる						
11回目	課題曲 6 アナライズ 楽曲の説明ができる						
12回目	課題曲 6 アンサンブル アンサンブルの中で演奏とパフォーマンスができる						
13回目	課題曲 7 アナライズ 楽曲の説明ができる						
14回目	課題曲 7 アンサンブル アンサンブルの中で演奏とパフォーマンスができる						
15回目	アンサンブル総復習						
準備学習 時間外学習							
評価方法	授業態度 10 % 出席率 10 % テスト 80 %	出 実技	評価方法は GPA 制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格				
受講生への メッセージ	実際のアンサンブルを通して、演奏面だけでなく、パフォーマンス力も付けてしっかりステージの上で輝けるようなミュージシャンを目指しましょう。						
【使用教科書・教材・参考書】 その都度必要な資料は渡しますが、特に用意するものではありません。							

2026年度 シラバス

科目名 (英)	パフォーマンスプロジェクト (Performance Projects)	必修 選択	必修選択	年次	2.3	担当教員	渡辺 智哉
学科	音楽テクノロジー科	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60	開講区分	後期
コース	全コース					曜日・時限	火曜1.2
【授業の学習内容】 （※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する） ヴォーカル、ギター、ベース、ドラム、キーボードのパートと課題曲をアンサンブルし、実際のセッションの中での立ち位置を理解し、演奏方法やパフォーマンス、インプロビゼーションの技術を習得する。課題曲を2週ごとに1曲出し、1週目はその曲のアナライズをし、2週目は実際にアンサンブルを行う。 ※実務者経験：ルネ音楽教室代表。自身のバンドやサポート・セッションギタリスト、インストラクターとして、名古屋を中心に15年以上活動が続けている。							
【到達目標】 アナライズまでには課題曲をしっかり聴き、できる限り自分のパートを弾けるようにしておく。アナライズでは、聴き取ってきたフレーズやリズムが合っているかの確認と訂正、音色の選択、ソロがある場合はインプロビゼーションができるようにする。アンサンブルでは実際にアナライズした内容を実践し、バンド内でのグルーヴ感や、演奏力、アイコンタクトやキュー出し、パフォーマンス力を身に付ける。							
授業計画・内容							
1回目	課題曲 1 アナライズ 楽曲の説明ができる						
2回目	課題曲 1 アンサンブル アンサンブルの中で演奏とパフォーマンスができる						
3回目	課題曲 2 アナライズ 楽曲の説明ができる						
4回目	課題曲 2 アンサンブル アンサンブルの中で演奏とパフォーマンスができる						
5回目	課題曲 3 アナライズ 楽曲の説明ができる						
6回目	課題曲 3 アンサンブル アンサンブルの中で演奏とパフォーマンスができる						
7回目	課題曲 4 アナライズ 楽曲の説明ができる						
8回目	課題曲 4 アンサンブル アンサンブルの中で演奏とパフォーマンスができる						
9回目	課題曲 5 アナライズ 楽曲の説明ができる						
10回目	課題曲 5 アンサンブル アンサンブルの中で演奏とパフォーマンスができる						
11回目	課題曲 6 アナライズ 楽曲の説明ができる						
12回目	課題曲 6 アンサンブル アンサンブルの中で演奏とパフォーマンスができる						
13回目	課題曲 7 アナライズ 楽曲の説明ができる						
14回目	課題曲 7 アンサンブル アンサンブルの中で演奏とパフォーマンスができる						
15回目	アンサンブル総復習						
準備学習 時間外学習							
評価方法	授業態度 10 % 出席率 10 % テスト 80 %	出 実技	評価方法は GPA 制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格				
受講生への メッセージ	実際のアンサンブルを通して、演奏面だけでなく、パフォーマンス力も付けてしっかりステージの上で輝けるようなミュージシャンを目指しましょう。						
【使用教科書・教材・参考書】 その都度必要な資料は渡しますが、特に用意するものではありません。							

名古屋スクールオブミュージック&ダンス専門学校 2026年度 シラバス

科目名 (英)	マネジメントⅠ (Management I)	必修 選択	必須	年次	2	担当教員	藤村 典子
学科	音楽テクノロジー科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60	開講区分	前期
コース	全コース					曜日・時限	火曜、3・4限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

音楽産業の基本構造を理解し、権利ビジネスの重要性、お金の流れを説明できるようになる。

※実務経験：2001年4月～2012年4月まで総合エンターテインメント企業の音楽マネージメント部門に所属。2012年5月よりインディペンデントレーベルにて、A&R、マネージメント、イベント制作、マーチャンダイジング事業に従事。

【到達目標】 プロダクションの仕組みを把握し、音楽産業の基本構造を理解する。 ・原盤印税と著作権印税の計算方法を習得する ・音源制作における収入、支出を理解し、予算を立てられる ・コンサート事業の収入、支出を理解し、予算を立てられる

授業計画・内容			
1回目	音楽業界の仕組みを説明できる		
2回目	音楽産業の基本構造を説明できる		
3回目	コンサートの現場で使用される舞台用語を習得する①		
4回目	コンサートの現場で使用される舞台用語を習得する②		
5回目	レコード会社の役割を説明できる①		
6回目	レコード会社の役割を説明できる②		
7回目	テレビ放送におけるネットワークを説明できる		
8回目	ストリーミングサービスが音楽市場に及ぼす影響と、予想される市場の変化を説明できる①		
9回目	ストリーミングサービスが音楽市場に及ぼす影響と、予想される市場の変化を説明できる②		
10回目	チケット不正転売禁止法施行と今後の課題を説明できる		
11回目	セティング図の書き方を習得する		
12回目	回線表の書き方を習得する		
13回目	原盤印税と著作権印税の計算方法を習得する		
14回目	舞台制作②/道具についておさらい		
15回目	筆記試験にて到達目標の達成率を確認する		
準備学習 時間外学習	音楽業界総合サイト『ミュージックマン』などで流行や動向をチェックしておく。		
評価方法	1. 定期試験（50％） 2. 出席率、授業態度（50％）	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	
受講生へのメッセージ	技術革新を起因としてマーケットが劇的に変化し、音楽業界もその影響を十分に受けています。今後の音楽業界では、目まぐるしい変化の中で、既存の概念にとらわれず、先見性をもって仕掛けていけるような、把握力と発想力のある人材が求められます。そのためにはまず音楽を”産業”として、”ビジネス”として捉え、権利やお金に強くなってください。		
【使用教科書・教材・参考書】			

名古屋スクールオブミュージック&ダンス専門学校 2026年度 シラバス

科目名 (英)	マネジメントⅡ (ManagementⅡ)	必修 選択	必須	年次	2	担当教員	藤村 典子
学科	音楽テクノロジー科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60	開講区分	後期
コース	全コース					曜日・時限	火曜、1・2限
【授業の学習内容】 (※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) 最新の音楽市場を把握し、新たな仕掛けを作れる発想力を身に付ける。 ※実務経験：2001年4月～2012年4月まで総合エンターテインメント企業の音楽マネージメント部門に所属。2012年5月よりインディペンデントレーベルにて、A&R、マネージメント、イベント制作、マーチャンダイジング事業に従事。							
【到達目標】 ・コンサートプロモーションの方法を習得する ・音楽市場の変化に合わせたプロモーション方法を習得する							

授業計画・内容			
1回目	地方におけるコンサートプロモーターの役割と実例を説明できる（北海道編）		
2回目	地方におけるコンサートプロモーターの役割と実例を説明できる（東北編）		
3回目	地方におけるコンサートプロモーターの役割と実例を説明できる（北陸・甲信越、中部編）		
4回目	地方におけるコンサートプロモーターの役割と実例を説明できる（中四国、九州編）		
5回目	地方におけるコンサートプロモーターの役割と実例を説明できる（関西編）		
6回目	地方におけるコンサートプロモーターの役割と実例を説明できる（関東編）		
7回目	最新の音楽市場の動向を説明できる①		
8回目	最新の音楽市場の動向を説明できる②		
9回目	チケット不正転売禁止法施行と今後の課題を説明できる①		
10回目	チケット不正転売禁止法施行と今後の課題を説明できる②		
11回目	音楽業界におけるコンプライアンスを習得する①		
12回目	音楽業界におけるコンプライアンスを習得する②		
13回目	音楽市場の変化に合わせたプロモーションの成功事例をもとにプロモーション方法を習得する①		
14回目	舞台制作②/道具についておさらい		
15回目	筆記試験にて到達目標の達成率を確認する		
準備学習 時間外学習	各交通機関や遠方に出向いた際の各地の(宿泊先・食事関係・交通費)相場を確認しておく。 ライブ会場に出向いた際に、各スタッフの仕事内容を把握しておく。		
評価方法	1. 定期試験（50%） 2. 出席率、授業態度（50%）	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	
受講生への メッセージ	技術革新を起因としてマーケットが劇的に変化し、音楽業界もその影響を十分に受けています。 今後の音楽業界では、目まぐるしい変化の中で、既存の概念にとらわれず、先見性をもって仕掛けていけるような、 把握力と発想力のある人材が求められます。そのためにはまず音楽を”産業”として、”ビジネス”として捉え、権利やお金に強くなってください。		
【使用教科書・教材・参考書】			

名古屋スクールオブミュージック&ダンス専門学校 2026年度 シラバス

科目名 (英)	舞台制作 (music production)	必修 選択	必須	年次	3	担当教員	林達也
学科	音楽テクノロジー科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60	開講区分	前期
コース	全コース					曜日・時限	月曜日3・4限
【授業の学習内容】 (※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) 刻々と変わって行く音楽ビジネスの現状を常に吸収し習得する。音楽業界の基本構造を理解し、著作権から発生する印税の仕組み、またコンサートビジネス／カラオケビジネス／レンタルCDなどの基礎も習得する。 また、著作権の概念や目的の基本を理解する。著作物とは何であるかを理解した上で、現代における音楽著作権の問題点なども含め、著作権使用料／印税などの具体例や実例を挙げて考察していく。							
【到達目標】 音楽業界の基礎／著作権の基礎を理解するとともに、ビジネス的視点で捉えるスキル／考え方を得ることを目的とする。配信ビジネスへの変遷を含め、さまざまな角度から音楽ビジネスと音楽著作権を研究する。 著作権を主とした権利マネジメント／ビジネスの概要を習得する。また、現代における著作権の問題点などもあわせて習得する。							

授業計画・内容		
1回目	オリエンテーション／音楽業界の構造（１）／日本のレコード産業・全体像	
2回目	音楽業界の構造（２）／日本レコード協会・JASRAC	
3回目	著作権の基礎（１）概要／構造	
4回目	著作権の基礎（２）歴史／現在	
5回目	アーティストの権利／印税とは	
6回目	収入シミュレーション（CD販売）	
7回目	収入シミュレーション（ダウンロード／音楽配信）	
8回目	日本におけるカラオケの歴史と市場／印税配分	
9回目	著作権の保護期間／フェアユース／問題点など	
10回目	ミュージックビデオ／プロモーションビデオの歴史と成り立ち	
11回目	レンタルCD市場の歴史と著作権	
12回目	ツアー／ライブ／コンサートビジネスの基礎（１）	
13回目	ツアー／ライブ／コンサートビジネスの基礎（２）	
14回目	舞台制作②/道具についておさらい	
15回目	まとめ／復習／期末課題への取り組み	
準備学習 時間外学習	教科書などを用いた授業への予習／毎授業で配布される授業資料を復習	
評価方法	1. 授業への参加／取り組み 30% 2. 授業内課題 30% 3. 期末レポート 30% 4. 授業態度 10%	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格
受講生への メッセージ	現代において音楽活動や音楽ビジネスに携わっていくには、これまで以上に音楽業界の基本構造や音楽ビジネスの基礎を学んでおく必要があります。また、音楽における権利＝著作権とはなんなのか？どのような利益をもたらすのか？を理解しておくのが必須となってきています。難解な部分もあるかもしれませんが、出来るだけ易しく紐解いていければと考えております。	
【使用教科書・教材・参考書】		
使用教科書（学校より配布）：よくわかる音楽著作権ビジネス 基礎編／実践編 5th Edition （安藤 和宏） 参考書：18歳の著作権入門 （福井 健策）		

名古屋スクールオブミュージック&ダンス専門学校 2026年度 シラバス

科目名 (英)	ステージ/イベントプロダクション プロジェクト	必修 選択	必修選択	年次	2・3年	担当教員	斎須 敏治
学科	音楽テクノロジー科	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60	開講区分	前期
コース	全コース					曜日・時限	火曜日2.3限
【授業の学習内容】 アーティストを売り出すための、マーケティング、プロモーションについて学ぶ。 ※芸能プロダクションを経て、現在フリーランスとしてプロダクションの制作実務を行う。							
【到達目標】 プロモーションプランを組み立て、実際にイベントを行えるスキルを身につける。							

授業計画・内容			
1回目	アンケート実施。生徒の好きな音楽、普段の音楽に関する市場調査実施。		
2回目	各自、題材を決め アーティストをプレゼンテーションする		
3回目	各自、題材を決め アーティストをプレゼンテーションする		
4回目	レコード会社のプロモーター基本編 アーティスト資料について学ぶ		
5回目	エイベックス創業者について学ぶ（映像視聴）		
6回目	秋元康のAKBプロジェクトを通じて、プロデュースについて学ぶ		
7回目	アーティスト、販促イベント、タイムテーブルの書き方を学ぶ		
8回目	アーティスト、販促イベント、タイムテーブルの書き方を学ぶ		
9回目	考える力・考える癖をつける基本 自分の意見をもつことの重要性について学ぶ		
10回目	考える力・考える癖をつける基本 自分の意見をもつことの重要性について学ぶ		
11回目	市場調査 タワーレコード、ヴィレヴァン、HMVなどの店舗を調査する		
12回目	市場調査 タワーレコード、ヴィレヴァン、HMVなどの店舗を調査する		
13回目	音楽業界の著名人のインタビューを考察し、レポート提出		
14回目	テスト		
15回目	総括		
準備学習 時間外学習			
評価方法	授業態度（10%） レポート（10%） 実地試験（80%）	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	
受講生への メッセージ			
【使用教科書・教材・参考書】			

名古屋スクールオブミュージック&ダンス専門学校 2026年度 シラバス

科目名 (英)	ステージイベントプロダクション プロジェクト	必修 選択	必修選択	年次	2・3年	担当教員	藤村典子
学科	音楽テクノロジー科	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60	開講区分	後期
コース	全コース					曜日・時限	水曜 1限
【授業の学習内容】 マスメディアと宣伝、テレビ局と新聞社など音楽業界の関係性をはじめ番組制作に必要なイベント制作について学ぶ。また楽器についての知識を楽器セッティングを通じて習得する。※プロダクションである株式会社アミューズを経て、フリーランスとして名古屋を中心としたバンドマネジメント・制作を行う。							
【到達目標】 番組制作に必要な各種イベント・コンサートの制作についての基礎知識を習得し、コンサート・ライブ・イベントを実施できるようにする。							

授業計画・内容	
1回目	授業の説明。番組制作などに必要なイベント制作の基本的な概念を学ぶ。
2回目	イベンター（プロモーター）とアーティストマネジメントの関係。コンサートスタッフの仕事について学ぶ。
3回目	プロダクション・レコードメーカーでの業務について学ぶ。
4回目	野外フェスティバル（夏フェスetc）マネージャーとしてのかかり方を学ぶ
5回目	楽器についての知識と必要性。用語、機材についての知識を習得
6回目	楽器についての知識と必要性。ドラムなどのセッティングを習得
7回目	ライブ制作の基礎を学ぶ。コンセプト、開催時期、予算組など
8回目	ライブ制作の基礎を学ぶ。コンセプト、開催時期、予算組など
9回目	現代のライブシーンを考察し、これからのライブ制作について学ぶ。
10回目	イベントの仕組みについて～企画から本番当日までの流れを学ぶ。
11回目	イベントの仕組みについて～企画から本番当日までの流れを学ぶ。
12回目	プロモーション～テレビ局、新聞社などマスメディアと宣伝について学ぶ
13回目	プロモーション～テレビ局、新聞社などマスメディアと宣伝について学ぶ
14回目	試験
15回目	総括
準備学習 時間外学習	
評価方法	1. 定期試験（50%） 2. 課題提出（50%）
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

名古屋スクールオブミュージック&ダンス専門学校 2026年度 シラバス

科目名 (英)	インテンシブパフォーマンス	必修 選択	必修選択	年次	3	担当教員	西野 恭平
学科	音楽テクノロジー科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60	開講区分	前期
コース	全コース					曜日・時限	水曜5.6
【授業の学習内容】 (※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) ダンスヴォーカルとして必要な実戦に活かせる知識を習得する。自らスキル向上、調整を行えるようにアーティストマインドについても習得する。 ＊実務経験(Dance & Vocal): WDC東北予選POP SIDE 優勝、アメリカNYC「BATTLE 101」BEST 8、その他、優勝8回、準優勝5回の経歴有り 2019年ヴォーカルグループ「イエローソーダ」として東京、名古屋、京都、群馬の4都市ツアー開催、2019年9月NY Apollo Theater Amateur Night Audition 合格、2018/9/10 1st ALBUM CD「MUSEUM」リリース、名古屋市民会館 EX SHOW2017出演(2018年4月～NSM,DA,TSM渋谷にてVocal&Dance講師を行なっている。) 【到達目標】 ステージパフォーマンス強化を目的とする。ダンスにヴォーカルを融合させた場合のステージングスキル、ヴォーカルスキル、ダンススキル、セルフプロデュース力を向上することができる。							

授業計画・内容	
1回目	2年次の個人目標設定を行い意識を高めることができる
2回目	腹式呼吸が自分で理解し出来るようになる
3回目	ステージでのマイクテクニックのレパートリーを増やしパフォーマンスができるようになる
4回目	パフォーマンスに緩急を付けることができるようになる
5回目	簡単な動きをつけながら、歌唱パフォーマンスを行うことができる
6回目	1年次よりレベルをあげたステップをつけながら、歌唱パフォーマンスを行うことができる
7回目	パフォーマンスに緩急を付けることができるようになる
8回目	振り付けに合わせて、どんな歌唱パフォーマンスがあるか検証し、歌唱パフォーマンスができるようになる
9回目	自分で振り付け、ステージパフォーマンスを考えることができる
10回目	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを行うことができる
11回目	事前に選択した曲1コーラスヴォーカルパフォーマンスができるようになる
12回目	歌唱パフォーマンスのクオリティを高めることができるようになる
13回目	自分の振り付け、歌唱パフォーマンスを見直し、クオリティの高いパフォーマンスができるようになる
14回目	事前に選択した曲を1コーラスヴォーカルパフォーマンスをし、課題を見つけることができる
15回目	テストを実施し自分のスキルを知ることができる
準備学習 時間外学習	※授業の注意事項 ・パフォーマンスを行いたい曲を事前に決めて歌詞を暗記して来ること。 ・歌詞をノートに書いて持って来ること。
評価方法	1. 出席・授業態度 (40%) 2. 実地試験 (60%)
受講生への メッセージ	歌を上手くなるには時間が掛かります。また、パフォーマンスをする事で思い通りに歌うことが出来ないことがあります。それらを改善し、効率的なパフォーマンススキルの飛躍をお手伝いさせていただきます。一緒に頑張りましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 iPad(カラオケ音源) ワイヤレスマイク ダミーマイク	

名古屋スクールオブミュージック&ダンス専門学校 2026年度 シラバス

科目名 (英)	インテンシブパフォーマンス	必修 選択	必修選択	年次	3	担当教員	西野 恭平
学科	音楽テクノロジー科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60	開講区分	後期
コース	全コース					曜日・時限	水曜5.6
【授業の学習内容】 (※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) ダンスヴォーカルとして必要な実戦に活かせる知識を習得する。自らスキル向上、調整を行えるようにアーティストマインドについても習得する。 ＊実務経験(Dance & Vocal): WDC東北予選POP SIDE 優勝、アメリカNYC「BATTLE 101」BEST 8、その他、優勝8回、準優勝5回の経歴有り2019年ヴォーカルグループ「イエローソーダ」として東京、名古屋、京都、群馬の4都市ツアー開催、2019年9月NY Apollo Theater Amateur Night Audition 合格、2018/9/10 1st ALBUM CD「MUSEUM」リリース、名古屋市民会館 EX SHOW2017出演(2018年4月～NSM,DA,TSM渋谷にてVocal&Dance講師を行なっている。) 【到達目標】 ステージパフォーマンス強化を目的とする。ダンスにヴォーカルを融合させた場合のステージングスキル、ヴォーカスキル、ダンススキル、セルフプロデュース力を向上することができる。							

授業計画・内容	
1回目	卒業まで、卒業後の個人目標設定を行い意識を高めることができる
2回目	腹式呼吸が出来るようになる
3回目	ステージでのマイクテクニックを知ることができる
4回目	パフォーマンスに緩急を付けられるようになる1(アイソレーション、ヒット、ウォークアウト)
5回目	簡単な動きをつけながら、歌唱パフォーマンスを行うことができる
6回目	簡単なステップをつけながら、歌唱パフォーマンスを行うことができる
7回目	昨今のミュージックシーンに、多大な影響を与えているダンスジャンルPOPPINGの基礎を身につけることができる
8回目	アイソレーション、ポップ、サイドスライドを身につけ、歌唱パフォーマンスが出来るようになる
9回目	ストレッチ、振り付け8X4を身につけ、歌唱パフォーマンスが出来るようになる
10回目	ストレッチ、セルフプロデュースパフォーマンスを作り上げるヴォーカルが引き立つ演出を中心に制作することができる
11回目	ストレッチ、セルフプロデュースパフォーマンスを作り上げスキルアップをすることができる
12回目	服装、角度、ポーズ、パフォーマンスを様々なバリエーションでパフォーマンスが出来るようになる
13回目	改善点を見つけ、どのようにすると良くなるか反復練習し、クオリティの高い歌唱パフォーマンスが出来るようになる
14回目	事前に選択した曲を1コーラスヴォーカルパフォーマンスをし、課題を見つけることができる
15回目	テストを実施し自分のスキルを知ることができる
準備学習 時間外学習	※授業の注意事項 ・パフォーマンスを行いたい曲を事前に決めて歌詞を暗記して来ること。 ・歌詞をノートに書いて持って来ること。
評価方法	1. 出席・授業態度 (40%) 2. 実地試験 (60%)
受講生への メッセージ	歌を上手くなるには時間が掛かります。また、パフォーマンスをする事で思い通りに歌うことが出来ないことがあります。それらを改善し、効率的なパフォーマンススキルの飛躍をお手伝いさせていただきます。一緒に頑張りましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 iPad(カラオケ音源) ワイヤレスマイク ダミーマイク	

名古屋スクールオブミュージック&ダンス専門学校 2026年度 シラバス

科目名 (英)	プロジェクトワーク (project work)	必修 選択	必修選択	年次	3	担当教員	井上 直																																																																																																																																																								
学科	音楽テクノロジー	授業 形態	講義 または 演習	総時間 (単位)	150	開講区分	前期																																																																																																																																																								
コース	全コース					曜日・時限	月曜3～7限																																																																																																																																																								
【授業の学習内容】 (※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) コンセプトワークからコンポーズ・アレンジ、ブックイング・レコーディング・ディレクション・マスタリング・パッケージ・納品・コンテンツ作成まで各々が現場に立ち、プロデュースを行う。本授業を通し、グループワークと柔軟性を習得する。近年のクリエイターの活動傾向を鑑みて、楽曲・志向・活動等を具体的且つ視覚的にデザインし、“アピール”するというマインドを習得する。 ※実務者経験：株式会社ポニーキャニオン所属 主業務はマニピュレーター&キーボード、作曲、編曲をはじめ、レコーディングからディレクション、マスタリング、オーサリングまで担当																																																																																																																																																															
【到達目標】 ◆コンセプト・プロット・企画書完成、作曲・アレンジに取りかかり、コンテンツ完成までの50%以上が完了。 ◆流行のコンテンツサービスをはじめ、音楽・動画配信の定義と仕組み説明ができるようになる。 ◆著作物を扱うリテラシーを習得する。 ◆本授業通して自身の活動スタイルに合わせたコンテンツを発見する。																																																																																																																																																															
授業計画・内容 <table border="1"> <tr><td>1回目</td><td colspan="7">【オリエンテーション】卒業制作のレギュレーションとフローの説明、目標設定発表、グループ決め、スケジュール表を制作する</td></tr> <tr><td>2回目</td><td colspan="7">【講義】CDのメリットデメリット、配信のメリットデメリット、また情報を発信できるサイトやツール・SNSの紹介・特色を分析出来る</td></tr> <tr><td>3回目</td><td colspan="7">【コンセプトワーク】アルバムを制作するにあたり、コンセプトを明確に表記した企画書の作成が出来る</td></tr> <tr><td>4回目</td><td colspan="7">【コンセプトワーク2】企画書、スケジュール表を提出(企画書スケジュールのリテイクあり) 企画の通ったグループから作品制作演習を行う</td></tr> <tr><td>5回目</td><td colspan="7">【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う</td></tr> <tr><td>6回目</td><td colspan="7">【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※企画書提出×切</td></tr> <tr><td>7回目</td><td colspan="7">【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック</td></tr> <tr><td>8回目</td><td colspan="7">【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック</td></tr> <tr><td>9回目</td><td colspan="7">【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック</td></tr> <tr><td>10回目</td><td colspan="7">【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック</td></tr> <tr><td>11回目</td><td colspan="7">【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック</td></tr> <tr><td>12回目</td><td colspan="7">【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック</td></tr> <tr><td>13回目</td><td colspan="7">【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック</td></tr> <tr><td>14回目</td><td colspan="7">【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック</td></tr> <tr><td>15回目</td><td colspan="7">【OC(質問事項に対しての講義)】スケジュールと制作演習を行う、現地点での制作楽曲のプレゼンが出来る</td></tr> <tr> <td>準備学習 時間外学習</td><td colspan="7">授業だけではまかないきれないので、時間外の制作がほとんどになると思います。 たくさん曲を制作することになりますので、自分の表現したいイメージを十分に膨らませておいてください。</td></tr> <tr> <td>評価方法</td><td> 1. 定期試験 (%) 2. 小テスト (%) 3. レポート (%) 4. 課題成果 (%) 5. 実地試験 (%) </td><td> 評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格 </td><td colspan="5"> レポート60%(進捗報告とクオリティチェックで判断) 課題成果40%(クオリティチェック後の次回授業での報告で評価) </td></tr> <tr> <td>受講生への メッセージ</td><td colspan="7">NSMで学んできたこと、経験してきたことの集大成を作り上げる卒業制作プロジェクトです。 音楽的クオリティの追求からアートワーク作成、各々が自身の活動に合うコンテンツ作成までをつくりあげます。 全力を尽くして作品創作に臨みましょう。</td></tr> <tr> <td colspan="8"> 【使用教科書・教材・参考書】 プロットを作成するシーンが多いため、必ず専用のノートと筆記用具を持参。(シャープペンシルや鉛筆など、消すことが可能なステーションナリー推奨))必要に応じて保存メディア・個人ストレージを用意 </td></tr> </table>								1回目	【オリエンテーション】卒業制作のレギュレーションとフローの説明、目標設定発表、グループ決め、スケジュール表を制作する							2回目	【講義】CDのメリットデメリット、配信のメリットデメリット、また情報を発信できるサイトやツール・SNSの紹介・特色を分析出来る							3回目	【コンセプトワーク】アルバムを制作するにあたり、コンセプトを明確に表記した企画書の作成が出来る							4回目	【コンセプトワーク2】企画書、スケジュール表を提出(企画書スケジュールのリテイクあり) 企画の通ったグループから作品制作演習を行う							5回目	【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う							6回目	【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※企画書提出×切							7回目	【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック							8回目	【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック							9回目	【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック							10回目	【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック							11回目	【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック							12回目	【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック							13回目	【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック							14回目	【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック							15回目	【OC(質問事項に対しての講義)】スケジュールと制作演習を行う、現地点での制作楽曲のプレゼンが出来る							準備学習 時間外学習	授業だけではまかないきれないので、時間外の制作がほとんどになると思います。 たくさん曲を制作することになりますので、自分の表現したいイメージを十分に膨らませておいてください。							評価方法	1. 定期試験 (%) 2. 小テスト (%) 3. レポート (%) 4. 課題成果 (%) 5. 実地試験 (%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	レポート60%(進捗報告とクオリティチェックで判断) 課題成果40%(クオリティチェック後の次回授業での報告で評価)					受講生への メッセージ	NSMで学んできたこと、経験してきたことの集大成を作り上げる卒業制作プロジェクトです。 音楽的クオリティの追求からアートワーク作成、各々が自身の活動に合うコンテンツ作成までをつくりあげます。 全力を尽くして作品創作に臨みましょう。							【使用教科書・教材・参考書】 プロットを作成するシーンが多いため、必ず専用のノートと筆記用具を持参。(シャープペンシルや鉛筆など、消すことが可能なステーションナリー推奨))必要に応じて保存メディア・個人ストレージを用意							
1回目	【オリエンテーション】卒業制作のレギュレーションとフローの説明、目標設定発表、グループ決め、スケジュール表を制作する																																																																																																																																																														
2回目	【講義】CDのメリットデメリット、配信のメリットデメリット、また情報を発信できるサイトやツール・SNSの紹介・特色を分析出来る																																																																																																																																																														
3回目	【コンセプトワーク】アルバムを制作するにあたり、コンセプトを明確に表記した企画書の作成が出来る																																																																																																																																																														
4回目	【コンセプトワーク2】企画書、スケジュール表を提出(企画書スケジュールのリテイクあり) 企画の通ったグループから作品制作演習を行う																																																																																																																																																														
5回目	【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う																																																																																																																																																														
6回目	【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※企画書提出×切																																																																																																																																																														
7回目	【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック																																																																																																																																																														
8回目	【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック																																																																																																																																																														
9回目	【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック																																																																																																																																																														
10回目	【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック																																																																																																																																																														
11回目	【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック																																																																																																																																																														
12回目	【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック																																																																																																																																																														
13回目	【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック																																																																																																																																																														
14回目	【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック																																																																																																																																																														
15回目	【OC(質問事項に対しての講義)】スケジュールと制作演習を行う、現地点での制作楽曲のプレゼンが出来る																																																																																																																																																														
準備学習 時間外学習	授業だけではまかないきれないので、時間外の制作がほとんどになると思います。 たくさん曲を制作することになりますので、自分の表現したいイメージを十分に膨らませておいてください。																																																																																																																																																														
評価方法	1. 定期試験 (%) 2. 小テスト (%) 3. レポート (%) 4. 課題成果 (%) 5. 実地試験 (%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	レポート60%(進捗報告とクオリティチェックで判断) 課題成果40%(クオリティチェック後の次回授業での報告で評価)																																																																																																																																																												
受講生への メッセージ	NSMで学んできたこと、経験してきたことの集大成を作り上げる卒業制作プロジェクトです。 音楽的クオリティの追求からアートワーク作成、各々が自身の活動に合うコンテンツ作成までをつくりあげます。 全力を尽くして作品創作に臨みましょう。																																																																																																																																																														
【使用教科書・教材・参考書】 プロットを作成するシーンが多いため、必ず専用のノートと筆記用具を持参。(シャープペンシルや鉛筆など、消すことが可能なステーションナリー推奨))必要に応じて保存メディア・個人ストレージを用意																																																																																																																																																															

科目名(英)	プロジェクトワーク (project work)	必修 選択	必修選択	年次	3	担当教員	井上 直
学科	音楽テクノロジー	授業 形態	講義 または 演習	総時間 (単位)	150	開講区分	前期
コース	全コース					曜日・時限	月曜3～7限
【授業の学習内容】 (※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) コンセプトワークからコンポーズ・アレンジ、ブッキング・レコーディング・ディレクション・マスタリング・パッケージ・納品・コンテンツ作成まで各々が現場に立ち、プロデュースを行う。本授業を通し、グループワークと柔軟性を習得する。近年のクリエイターの活動傾向を鑑みて、楽曲・志向・活動等を具体的且つ視覚的にデザインし、“アピール”するというマインドを習得する。 ※実務者経験：株式会社ポニーキャニオン所属 主業務はマニピュレーター&キーボード、作曲、編曲をはじめ、レコーディングからディレクション、マスタリング、オーサリングまで担当							
【到達目標】 ◆コンセプト・プロット・企画書完成、作曲・アレンジに取りかかり、コンテンツ完成までの50%以上が完了。 ◆流行のコンテンツサービスをはじめ、音楽・動画配信の定義と仕組み説明ができるようになる。 ◆著作物を扱うリテラシーを習得する。 ◆本授業通して自身の活動スタイルに合わせたコンテンツを発見する。							
授業計画・内容							
1回目	【コンセプトワーク】 アルバム制作のスケジュール確認						
2回目	【OC(質問事項に対しての講義)】 制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック						
3回目	【OC(質問事項に対しての講義)】 制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック						
4回目	【OC(質問事項に対しての講義)】 制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック						
5回目	【OC(質問事項に対しての講義)】 制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック						
6回目	【OC(質問事項に対しての講義)】 制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック						
7回目	【OC(質問事項に対しての講義)】 制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック						
8回目	【OC(質問事項に対しての講義)】 制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック						
9回目	【OC(質問事項に対しての講義)】 制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック						
10回目	【OC(質問事項に対しての講義)】 制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック						
11回目	【制作演習】 CDアルバム制作スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック						
12回目	【制作演習】 CDアルバム制作スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック						
13回目	【制作演習】 CDアルバム制作スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック						
14回目	【制作演習】 CDアルバム制作スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック						
15回目	【制作演習】 CDアルバム制作、楽曲のプレゼンが出来る						
準備学習 時間外学習	授業だけではまかないきれないので、時間外の制作がほとんどになると思います。 たくさん曲を制作することになりますので、自分の表現したいイメージを十分に膨らませておいてください。						
評価方法	1. 定期試験 (%) 2. 小テスト (%) 3. レポート (%) 4. 課題成果 (%) 5. 実地試験 (%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	レポート60%(進捗報告とクオリティチェックで判断) 課題成果40%(クオリティチェック後の次回授業での報告で評価)				
受講生への メッセージ	NSMで学んできたこと、経験してきたことの集大成を作り上げる卒業制作プロジェクトです。 音楽的クオリティの追求からアートワーク作成、各々が自身の活動に合うコンテンツ作成までをつくりあげます。 全力を尽くして作品創作に臨みましょう。						
【使用教科書・教材・参考書】 プロットを作成するシーンが多いため、必ず専用のノートと筆記用具を持参。 (シャープペンシルや鉛筆など、消すことが可能なステーションナリー推奨) 必要に応じて保存メディア・個人ストレージを用意							

名古屋スクールオブミュージック&ダンス専門学校 2026年度 シラバス

科目名 (英)	コンポジションプロジェクト I (Composition Project)	必修 選択	必修選択	年次	2年	担当教員	井上 直
学科	音楽テクノロジー科	授業 形態	講義 または 演習	総時間 (単位)	60	開講区分	前期
コース	全コース				4	曜日・時限	月曜5,6限
【授業の学習内容】 (※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) コンセプトワークからコンポーズ・アレンジ、ブックイング・レコーディング・ディレクション・マスタリング・パッケージ・納品・コンテンツ作成まで各々が現場に立ち、プロデュースを行う。本授業を通し、グループワークと柔軟性を習得する。近年のクリエイターの活動傾向を鑑みて、楽曲・志向・活動等を具体的且つ視覚的にデザインし、“アピール”するというマインドを習得する。 ※実務者経験：株式会社ボニーキャニオン所属 主業務はマニピュレーター&キーボード、作曲、編曲をはじめ、レコーディングからディレクション、マスタリング、オーサリングまで担当							
【到達目標】 ◆コンセプト・プロット・企画書完成、作曲・アレンジに取りかかり、コンテンツ完成までの50%以上が完了。 ◆流行のコンテンツサービスをはじめ、音楽・動画配信の定義と仕組み説明ができるようになる。 ◆著作物を扱うリテラシーを習得する。 ◆本授業通して自身の活動スタイルに合わせたコンテンツを発見する。							
授業計画・内容							
1回目	【オリエンテーション】卒業制作のレギュレーションとフローの説明、目標設定発表、グループ決め、スケジュール表を制作する						
2回目	【講義】CDのメリットデメリット、配信のメリットデメリット、また情報を発信できるサイトやツール・SNSの紹介・特色を分析出来る						
3回目	【コンセプトワーク】アルバムを制作するにあたり、コンセプトを明確に表記した企画書の作成が出来る						
4回目	【コンセプトワーク2】企画書、スケジュール表を提出(企画書スケジュールのリテイクあり) 企画の通ったグループから作品制作演習を行う						
5回目	【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う						
6回目	【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※企画書提出×切						
7回目	【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック						
8回目	【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック						
9回目	【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック						
10回目	【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック						
11回目	【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック						
12回目	【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック						
13回目	【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック						
14回目	【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック						
15回目	【OC(質問事項に対しての講義)】スケジュールと制作演習を行う、現地点での制作楽曲のプレゼンが出来る						
準備学習 時間外学習	授業だけではまかないきれないので、時間外の制作がほとんどになると思います。 たくさん曲を制作することになりますので、自分の表現したいイメージを十分に膨らませておいてください。						
評価方法	1. 定期試験 (%) 2. 小テスト (%) 3. レポート (%) 4. 課題成果 (%) 5. 実地試験 (%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	レポート60%(進捗報告とクオリティチェックで判断) 課題成果40%(クオリティチェック後の次回授業での報告で評価)				
受講生への メッセージ	NSMで学んできたこと、経験してきたことの集大成を作り上げる卒業制作プロジェクトです。 音楽的クオリティの追求からアートワーク作成、各々が自身の活動に合うコンテンツ作成までをつくりあげます。 全力を尽くして作品創作に臨みましょう。						
【使用教科書・教材・参考書】 プロットを作成するシーンが多いため、必ず専用のノートと筆記用具を持参。 (シャープペンシルや鉛筆など、消すことが可能なステーションナリー推奨) 必要に応じて保存メディア・個人ストレージを用意							

2026年度 シラバス

科目名 (英)	コンポジションプロジェクト I (Composition Project)	必修 選択	必修選択	年次	2年	担当教員	井上 直
学科	音楽テクノロジー科	授業 形態	講義 または 演習	総時間 (単位)	60	開講区分	後期
コース	全コース				4	曜日・時限	月曜5,6限
【授業の学習内容】 (※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) コンセプトワークからコンボーズ・アレンジ、ブックイング・レコーディング・ディレクション・マスタリング・パッケージ・納品・コンテンツ作成まで各々が現場に立ち、プロデュースを行う。本授業を通し、グループワークと柔軟性を習得する。近年のクリエイターの活動傾向を鑑みて、楽曲・志向・活動等を具体的且つ視覚的にデザインし、“アピール”するというマインドを習得する。 ※実務者経験：株式会社ボニーキャニオン所属 主業務はマニピュレーター&キーボード、作曲、編曲をはじめ、レコーディングからディレクション、マスタリング、オーサリングまで担当							
【到達目標】 ◆コンセプト・プロット・企画書完成、作曲・アレンジに取りかかり、コンテンツ完成までの50%以上が完了。 ◆流行のコンテンツサービスをはじめ、音楽・動画配信の定義と仕組み説明ができるようになる。 ◆著作物を扱うリテラシーを習得する。 ◆本授業通して自身の活動スタイルに合わせたコンテンツを発見する。							
授業計画・内容							
1回目	【コンセプトワーク】 アルバム制作のスケジュール確認						
2回目	【OC(質問事項に対しての講義)】 制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック						
3回目	【OC(質問事項に対しての講義)】 制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック						
4回目	【OC(質問事項に対しての講義)】 制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック						
5回目	【OC(質問事項に対しての講義)】 制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック						
6回目	【OC(質問事項に対しての講義)】 制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック						
7回目	【OC(質問事項に対しての講義)】 制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック						
8回目	【OC(質問事項に対しての講義)】 制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック						
9回目	【OC(質問事項に対しての講義)】 制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック						
10回目	【OC(質問事項に対しての講義)】 制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック						
11回目	【制作演習】 CDアルバム制作スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック						
12回目	【制作演習】 CDアルバム制作スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック						
13回目	【制作演習】 CDアルバム制作スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック						
14回目	【制作演習】 CDアルバム制作スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック						
15回目	【制作演習】 CDアルバム制作、楽曲のプレゼンが出来る						
準備学習 時間外学習	授業だけではまかないきれないので、時間外の制作がほとんどになると思います。 たくさん曲を制作することになりますので、自分の表現したいイメージを十分に膨らませておいてください。						
評価方法	1. 定期試験 (%) 2. 小テスト (%) 3. レポート (%) 4. 課題成果 (%) 5. 実地試験 (%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	レポート60%(進捗報告とクオリティチェックで判断) 課題成果40%(クオリティチェック後の次回授業での報告で評価)				
受講生へのメッセージ	NSMで学んできたこと、経験してきたことの集大成を作り上げる卒業制作プロジェクトです。 音楽的クオリティの追求からアートワーク作成、各々が自身の活動に合うコンテンツ作成までをつくりあげます。 全力を尽くして作品創作に臨みましょう。						
【使用教科書・教材・参考書】 プロットを作成するシーンが多いため、必ず専用のノートと筆記用具を持参。 (シャープペンシルや鉛筆など、消すことが可能なステーションナリー推奨) 必要に応じて保存メディア・個人ストレージを用意							